

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A	80人	国語B	80人
② 算数A	80人	算数B	80人
③ 理科	80人		

#### 5 留意事項

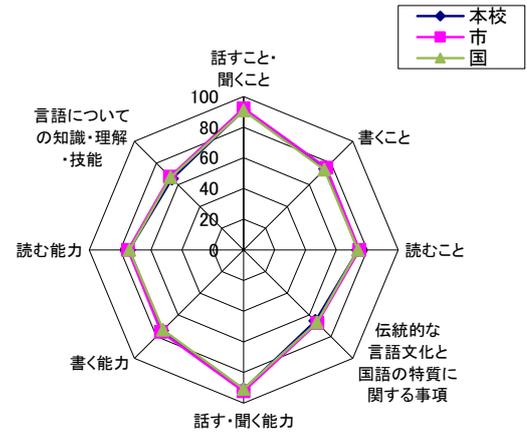
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

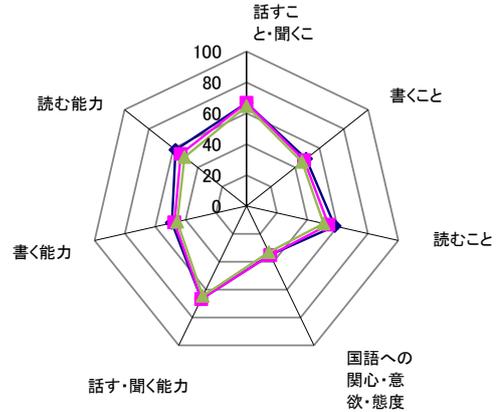
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	91.1	92.4	90.8
	書くこと	74.7	75.7	73.8
	読むこと	74.1	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.7	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	91.1	92.4	90.8
	書く能力	74.7	75.7	73.8
	読む能力	74.1	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	65.7	67.5	67.0



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	66.8	64.6
	書くこと	49.1	47.4	45.6
	読むこと	58.2	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	35.0	35.2	33.2
	話す・聞く能力	66.7	66.8	64.6
	書く能力	49.1	47.4	45.6
	読む能力	58.2	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

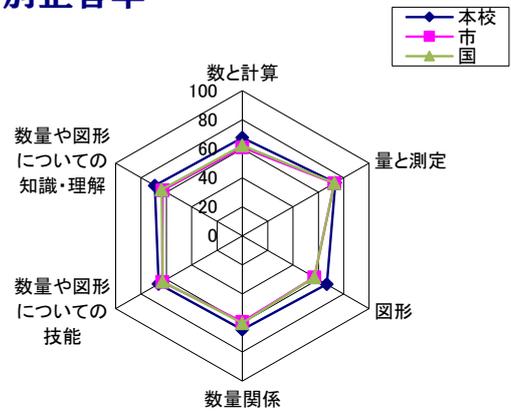
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、国語A・Bともに全国平均をやや上回っている。市とはほぼ同様である。</p> <p>○「質問の意図を捉える」「司会の役割について捉える」設問の正答率が高く、話し合い活動の充実を図った成果が見られる。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」設問の正答率がやや低い。</p>	<p>・話し合い活動が活発になるよう、発問や環境づくりを工夫する。</p> <p>・「聞く」ことの大切さを繰り返し伝える。</p> <p>・自分の意見と友達の意見を比較しながら、考えをまとめる討論活動を多く取り入れる。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、国語Aでは全国平均とほぼ同様である。国語Bでは、市及び全国平均を上回っている。</p> <p>○「推敲するためには、他のものと比較して書くことで、良さが伝わることを捉える」設問の平均正答率は、全国平均を大きく上回っている。</p> <p>●「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」設問の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。</p>	<p>・引き続き、ノート指導の充実を図る。</p> <p>・作文指導の際は、「内容の中心を明確にする」ことを指導の重点とする。</p> <p>・授業の中での「書く」活動や日常の日記指導の充実を図る。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は、国語Aでは全国平均とほぼ同様である。国語Bでは、全国・市平均を上回っている。</p> <p>○「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む」設問の正答率が高く、文章の叙述に丹念に読むことを指導してきた成果だと考えられる。</p>	<p>・説明文では、筆者の主張点は何かを読み取らせるために、要約指導や要旨を捉える指導の充実を図る。</p> <p>・物語文では、登場人物の心情の変化や主題を読み取らせるために、叙述を根拠にして、正確に文章を読み取る指導を今後も続けていく。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●平均正答率は、全国平均よりやや下回っている。</p> <p>●「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」設問の正答率がやや低い。</p> <p>●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の設問の正答率が低い漢字があった。</p>	<p>・「敬語」に関して、授業で指導するとともに、日常生活の中で「敬語」の使い方を指導する。</p> <p>・漢字について、筆順を意識させたり、丁寧に書かせたりする指導を続けていく。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>

# 宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

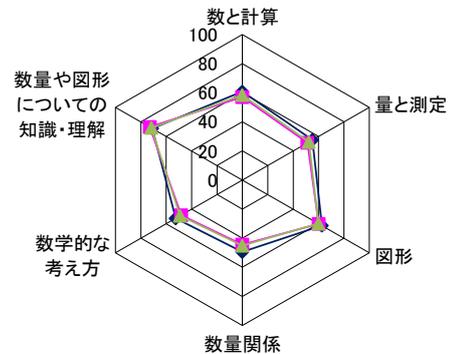
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	67.6	60.9	62.3
	量と測定	73.4	72.6	72.7
	図形	66.7	56.9	56.9
	数量関係	64.6	59.2	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.1	63.2	63.0
	数量や図形についての知識・理解	69.1	62.9	63.8



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.8	57.1	58.4
	量と測定	55.1	51.3	52.4
	図形	62.7	60.1	59.9
	数量関係	49.4	44.4	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.6	48.2	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	70.9	72.9	71.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

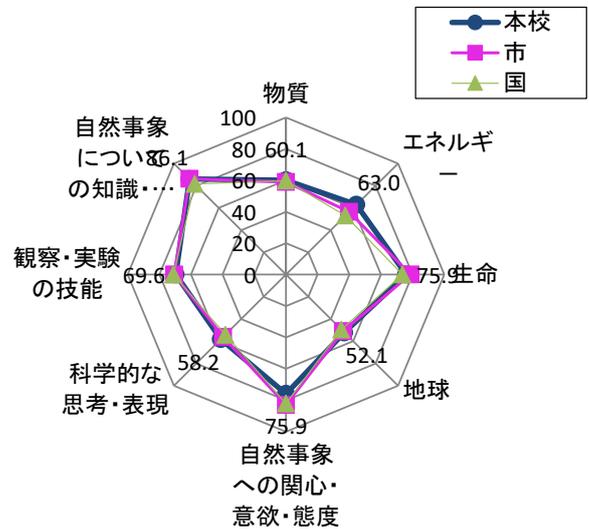
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、算数A・Bともに市及び全国平均を上回っている。</p> <p>○示された情報を解釈して、条件に合う時間を求める問題や数量関係を理解して数直線上に表す問題の正解率が高い。</p> <p>●十進位取り記数法で表された数の大小についての理解や示された数量を関連付けて根拠を明確にして記述する問題の正解率が低い。</p>	<p>・計算練習は今後も繰り返し練習する。小数や分数の計算では、小数点の移動や通分、約分を確認し習熟を図る。</p> <p>・小数の除法については、数直線を使って考えるようにしてきた。再度確認しながら理解の深化を図る。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は、算数A・Bともに市及び全国平均を上回っている。</p> <p>○単位量当たりの混み具合についての正解率が高い。</p> <p>●角の大きさについて、<math>180^\circ</math> までの角の大きさを求める問題の正解率が高いが、<math>180^\circ</math> より大きい角の大きさを求める問題の正解率が低い。</p>	<p>・混み具合の考え方については、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味についての理解を深める。</p> <p>・<math>180^\circ</math> より大きい角の大きさを求めるには、<math>180^\circ</math> や <math>360^\circ</math> を基に分度器を用いて考えるよう、やり方を復習し習熟を図る。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
図形	<p>○平均正答率は、算数A・Bともに市及び全国平均を上回っている。</p> <p>○円周率や直径と円周の長さの関係についての問題の正解率が高い。</p> <p>●合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す問題の正解率がやや低い。</p>	<p>・図形の学習では、今後も具体物を使ったり図をかいたりする活動を多く取り入れるようにする。さらに、図形の構成要素や性質について確認し、それらを活用できるよう習熟を図る。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は、算数A・Bともに市及び全国平均を上回っている。</p> <p>○百分率を求める問題や棒グラフや帯グラフから読み取る問題の正解率が高い。</p> <p>●折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題の正解率が低い。</p>	<p>・割合については、今後も、文章から「もとにする量」「比べられる量」を見い出し、その関係性を考えるようにし習熟を図る。</p> <p>・グラフについては、読み取りだけではなく、文章の情報と関連させたり、複数のグラフから適切に判断したりするような活用の場を増やしていく。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>

# 宇都宮市立峰小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	60.1	59.0	59.8
	エネルギー	63.0	56.4	53.1
	生命	75.9	78.6	73.6
	地球	52.1	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	75.9	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	58.2	56.1	54.1
	観察・実験の技能	69.6	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	86.1	86.2	81.5



### ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	<p>○平均正答率は、市及び全国の平均を若干上回っている。</p> <p>○実験結果を分析し、より妥当な考えを作り出すことがよくできている。実験をするときだけではなく、方法を考えたり考察したりするときに、グループでの話し合い活動を取り入れている成果だと考えられる。</p> <p>●濾過の適切な操作方法の正答率が全国平均と比べると低く、実験器具を適切に用いることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、実験方法や考察をする段階で、考えの根拠をきちんと記述したり、グループでの話し合い活動を取り入れたりするなど、児童が主体的に考える授業を展開していく。</p> <p>・実験を行う際には、おおまかに実験方法を考えることだけではなく、器具の正しい扱い方も丁寧に指導していく。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
エネルギー	<p>○平均正答率は、市及び全国平均を大きく上回っている。</p> <p>○学習した知識をものづくりに適用する問いの正答率が、全国平均よりも15%高かった。</p> <p>○予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、実験計画を構想することがよくできている。</p>	<p>・今後も、学習した知識を生活の場面に生かす視点を重視した指導を行っていく。</p> <p>・実験前に結果の予想を立てることを重視することで、必要な実験器具をイメージしたり、実験結果からより妥当な考えをもてたりすることにつなげ、児童が見通しをもって問題解決が図れるよう指導を行っていく。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
生命	<p>●平均正答率は、全国平均より高いものの、市の平均よりやや低い。</p> <p>○骨と骨のつなぎ目を科学的な言葉で説明したり、人の腕が曲がる仕組みを模型に適用することの正答率は全国平均を上回った。</p> <p>●結果を考察する際に、問題に対応した視点で分析する力に課題が見られる。</p>	<p>・自分の予想や考えについて、そう考えた根拠も説明する活動を充実させることで、より確かな理解につなげていく。</p> <p>・考察をする際には、調べる問題を振り返ることで、何を調べていたのかを意識させ、問題に対応した視点で分析できるよう指導の充実を図る。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>
地球	<p>○平均正答率は、市及び全国平均より高い。</p> <p>○堆積のはたらきについて科学的に説明する問題の正答率は高かった。用語を答えるだけではなく、意味を説明する活動を取り入れている成果と考えられる。</p> <p>●より妥当な考えを作り出すために、複数の情報を関係付けながら分析して考察することや、またその内容を記述することに課題が見られる。</p>	<p>・実験結果から考察する際には、自分たちの班だけのデータだけではなく、他の班のデータも用いて考える活動をこれまで以上に取り入れ、複数の情報を関係付ける力を育成していく。</p> <p>・自分の考えを口頭で発表するだけではなく、記述する機会を積極的に取り入れ、記述する力を育成できるようにする。</p> <p>・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。</p>

## 宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていておもしろいですか」の設問に対し、肯定的回答は97.5%で、これは県の平均を7.1%上回った。今後も、一人ひとりの子供たちのよさに目を向け、認め励ましたいとする。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の設問に対し、肯定的回答はそれぞれ、76.3%、86.3%であったが、県の平均と比較すると5%程下回っている。規則正しい生活習慣を身に付けさせたいと考える。

○「学校のきまりを守っている」と肯定的回答した児童の割合は93.8%であった。「峰小のよい子のきまり」の徹底を図り、規範意識を醸成している成果であると考えられる。今後も、きまりの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育むことができるよう、全校体制で指導していきたい。

○●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の設問に対する肯定的回答は、それぞれ、75.1%、71.3%であり、県平均を6.8ポイント、16.7ポイントを上回った。しかしながら、一方で、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の設問に対しては、それぞれ、61.3%、45.1%と低くなり、これらは、県の平均を下回っている。地域に育てられ、地域を愛する心情は育ってきているものの、自分ができることに置き換えて参画するまでには至っていない傾向も見られる。積極的に行動できる態度を養いたい。

○「家で学校の宿題をしている」の設問に肯定的回答をした児童の割合は96.3%で、ほぼ県の平均である。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に肯定的回答をした児童の割合は65.1%であった。今後、自主学習計画カードを用い、計画的に学習する習慣を育ていきたい。

si

## 宇都宮市立峰小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年間2回、家庭学習週間を設定し、家庭で学習した時間を記録させる。学年ごとに目標時間を設定し、家庭学習の習慣化を図る。	○6年生の家庭学習平均時間は、平日が98.9分、休日が98.0分と目標時間の60分を大幅に上回った。今後は、学習時間の少ない児童に対し、一緒に家庭学習の計画を立てるなどして、支援していく。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の数量関係の指導の充実	○29年度はわり算に関する問題に課題が見られたが、30年度は改善が見られる。	○フォローアップシート、ステップアップシートの活用により、基礎基本の定着を図る。 ○朝の学習や算数の授業において、必要に応じて無担の教員が学級に入り、学習につまずきの見られる児童を対象に個別支援する。